

何のために働くのか、働くことの意義を考える
—就職面接に臨むにあたっての心構え—

株式会社 開倫塾
代表取締役社長 林 明夫
(経済同友会 幹事)

Q 1 : はじめに、自己紹介を兼ねて現在の仕事や社会的活動を御紹介ください。

- A : (1) 株式会社 開倫塾 代表取締役社長
(学習塾、栃木県、群馬県、茨城県に 62 校舎)
(2) 学校法人 有朋学園 有朋高等学院 理事長(福島市)
(3) 宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
(4) 社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑 理事(足利市)
(5) マニー株式会社(手術用縫合針製造、東証一部)顧問、社外取締役(2004 ~ 2010 年)
(本社 : 宇都宮市。現地法人 : ハノイ、ヤンゴン、ビエンチャン)
(6) 開倫ユネスコ協会 会長
(7) CRT とちぎ放送「開倫塾の時間」毎週土曜日 9:15 ~ 9:25 担当、28 年目

Q 2 : 仕事とは何ですか。

- A : (1) すべての仕事には必ずお客様がいます。
(2) 仕事とは、「お客様の問題や課題を解決し、お客様のお役に立つこと」
で、「社会の問題や課題を解決し、社会のお役に立つこと」だと私は考
えます。
(3) このように、すべての仕事や企業、組織には「お客様」が存在し、お
客様の問題や課題を解決してお客様のお役に立つという「社会的使命(ミ
ッション、mission)」があります。



Q 3 : 人は何のために働くのだとお考えですか。

- A : (1) 生活できるだけの収入を得るため
*生活をともにする世帯で生活できるだけの収入を得る
(2) お客様や社会のお役に立つため
(3) よく生きるため
*仕事や社会的活動を通して、主体的に学ぶ力を身に付け、よく生きる



Q 4 : 就職試験に臨む心構えをお話ください。

- A : (1) 就職を希望する企業や組織・団体の「組織概要」をよく学び、正確に身に付けることです。
(2) 最も大切なのは、お客様は誰か・お客様のどのような問題や課題を解決してお客様のお役
に立とうとしているのか・社会の問題や課題をどのように解決して社会のお役に立とうとし
ているのか、つまり、企業や組織・団体の社会的使命・ミッションを知る努力をすること
です。これからの事業計画も含めて知り、理解する努力をすることです。
(3) その上で、その企業や組織・団体の社会的使命・ミッションの達成のために自分がやりた
いこと、挑戦したいことを考え、考えをまとめ、はっきりと言葉にして述べることです。
(4) 見学会があったら積極的に参加し、その際に(2)の内容を担当者にお聞きください。必ず
喜ばれ、就職面接のときに役に立ちます。筆記試験の作文のときにも、(2)の内容を踏まえ
て自分の熱い思いを伝えるとよいでしょう。

Q5：これからの社会はどのような社会ですか。また、そこで求められる鍵となる大切な能力は何ですか。

- A：(1)「知識基盤社会」… 知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力
(2)「グローバル社会」… 多様な集団で交流する能力
(3)「課題山積社会」… 自律的に活動する能力

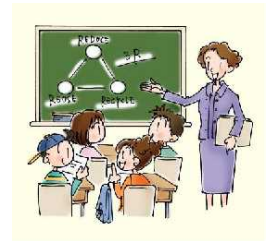


Q6：高校での教科の学習や教科外の活動は社会に出て役に立ちます。

- A：(1)役に立ちます。すべて役に立ちます。役に立たないことは一つもありません。
(2)ですから、中学校や高校の教科書・ノート・参考書は、絶対に捨てないこと。折に触れて読み返し、更に深い内容を学び続けること。
* 講談社「ブルー・ボックス」という新書シリーズ、生涯にわたって読み続けるをお勧めします。
(3)大学・短期大学・専門学校に進学するときや、進学後にも役に立ちます。
* 一度就職した後に再び学びたくなったら、社会人大学をお勧めします。「放送大学」は世界一の内容ですので、最もお勧めです。「生涯にわたって学び直す」すべての基礎は、中学校・高校での学習です。

Q7：効果の上がる学習方法を教えてください。

- A：学習を3つに分けて考えることです…「学習の3段階理論」とは
- (1)「理解」…うんなるほどよくわかること
①「予習」…よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨む
* 「辞書」を用いて、よくわからないことばの意味を調べ、記憶する
②「授業」…先生の目を見て熱心に聞く
③必要なことはすべて「ノート」に取る。授業後は「ノート整理」をし、すべて記憶する
- (2)「定着」…十分に「理解」した内容をスミからスミまで覚えること
①「音読練習」…スラスラとよく読めるまでに。何も見ないで言えるまでに
②「書き取り練習」…楷書で正確に書けるように
③「計算・問題練習」…一度解いた計算や問題をやり直し、正確がパッと出るまでに
- (3)「応用」…身に着けたことを役に立てること
①テストでよい点数、合格点が取れる…過去問を繰り返しやり直す。「間違いノート」「まとめノート」を作り、すべて覚える
②社会に出て役に立てるようにする—テキストは一生手放さない、繰り返し読み返す—



Q8：最後に一言どうぞ。

- A：最後に、私の好きなことばを紹介します。
- (1)「目には遠いが心は近い」(インドのことわざ)
(2)「歴史における個人の役割」(ロシアの革命家、プレハーノフ)
(3)「持続する志(こころざし)」(ノーベル賞作家、大江健三郎先生)
(4)「会った人は、皆、友達」(京都一燈園、石川洋先生)
(5)「離見の見(りけんのけん)」(世阿弥)
* 舞台上で舞っている自分の姿を観客席に座っている自分が見ている
(6)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)
(7)「教育ある人とは学び続ける人」(ドラッカー先生)
(8)「健康第一(身体の健康、心の健康)」
・「新聞」を毎日読み「自分で考える力」「批判的思考能力」を身に着けること—「スクラップブック」を作ろう—
・「読書」による「思慮深さ」を身に着けること—「書き抜き読書ノート」を作ろう—
・時々、小さな旅に出かけ、自分を見つめ直そう—「省察」(リフレクション)のすすめ—

以上

御清聴を感謝します。